社説

政府の對自由黨策

板垣伯は兼て噂の通り昨日を以ていよく内務大臣に任ぜられたり伯の入閣は我輩の毎度述べたる如く至當の成行にして毫も怪しむに足らざることなるが聞く所に據れば政府は自由黨への報酬として板垣一人は入れたれども多數の黨員を悉く官吏に用ふ可きに非ず左ればとて其儘に捨置くことも出來ざれば一時の彌縫策として其黨に實業の地位を授けんとするの魂膽もあるよし我輩は此風說の眞僞如何を知らずと雖も彼等の鋭氣を實業界に洩らさしめんとするに至ては掛念に堪へざる次第なり抑も御用商人の弊害は社會の一般に認むる所にして過去二十八年間に實業の發達を妨害したるものありとせば御用商人の如き最も甚だしきものと云はざるを得ず從前の御用商人なるものは二三の官吏に結託して政府買入品を受負ひ其間に種々の手段を運らして不當の利益を得るに過ぎざりしかども尚ほ且つ實業界を荒らしたること彼の如くなりしに今や政黨の勢力を擁し政府議院の內外に威柄ある徒をして實業界に跋扈せしめたらんには恰も右手に政權の白刄を携ひ左手に商賣の帳簿を携ふるものにして實業界に一種のマホメット派の如きものを見るに至る可し彼の米國ニウヨーク府のタマニー倶樂部が政黨の本部として政商を兼ね一切の商賣營業を壟斷して暴利を收めたるが如き又近くは我東京市會議員の間に勢力を逞うして水道工事に私曲を行はんとする輩を生じたるが如き其適例にして政府が一方に自由黨の總理を內に入れながら一方に其黨員輩に實業の地位を與へて鋭氣を洩らさしむることもあらんには其結果は今より想像するに難からず折角に發達整理したる今の實業界は之が爲めに攪亂せられて其眞實正經なる良民の迷惑此上もある可らず政府は國の脊髓とも云ふべき實業界に斯くまでの迷惑を蒙らしめても尚ほ且つ是種の窮策に出でんとするか政府が自由黨と結托したるは自家の都合に出でたることにして其始末に窮するは自業自得、傍より心配するの限りに非ずと雖も若しも實際に風說の如く彼の黨員輩の鋭氣を洩らすが爲めに實業を犧牲に供せんとすることもあらば我輩は斷じて反對す可し敢て一言する所以なり

○蠶絲業革新の時期

蠶絲業者は今や稀有の厄運に陷り横濱生絲商の如きは百方策盡て銀行に申譯の爲めか將萬一の僥倖を望んでか頻りと其筋に哀願し無利息の金を借りて一時の凌ぎを附けんとし初めは一千萬圓の貸出しを請ひ今は六箇年賦にて四百萬圓の融通を請願中なり斯る請願の聽き屆けらるべきや否やは其筋の沙汰を待たずして知るべきことならん我が蠶絲業者は今日に當り斯る姑息の策を講ぜずして奮發一番、災を變じて幸となし此時期を利用して大に蠶絲業の革新を計ることぞ望ましけれ

●日本絲の缺點●

從來我が蠶絲に缺點多きは世人の知る所なれど我が農商務省の諮問に應じて說明したる在米國紐育横濱生絲合名會社の支店員として多年此業に經驗あるアールヴイ　ブリースン氏の意見を聽かば一層其詳細の事情を知るに足るべし而して氏の缺點として列擧する所は左の如し

第一　織上げたる後光澤の惡しき事
第二　デニールの不同なる事
第三　伊太利絲に比し製造時間中織機の速力に能く耐ふる力に乏しき事
第四　伊太利絲に比して同等の伸力及び强力に乏しき事
第五　細ムラ多き事
第六　二本揚り三本揚り或は四本揚り多き事
第七　質類及び縺れの多き事
第八　ビリ類の多き事
第九　繰返しの不良なる事
第十　織上げたる後日本絲は伊太利絲、支那蒸汽機械絲に比し手觸り宜しからざる事
第十一　日本絲は終始同一の品位として使用する能はざる事
第十二　纖緯の分裂する事

以上の缺點ある其原因に就ても同氏は縷々說明する所ありしが要するに左の諸項に因ることは經驗ある我が蠶業家も亦豫て說く所なり

第一　原蠶の粗雜にして一定せざる事
第二　小資本の製絲家多く大仕掛けの製絲場極めて少なき事
第三　取引方法の不完全なる事

●第一●　日本蠶種の粗雜にして其種類は幾百種の多きに及び隨つて成繭一定せず如何なる巧手如何なる良器械にても到底一揃ひの絲を多量に製し難かるべしとの事は曾て本紙上にも記したる如くにして支那は養蠶方法の未熟なるに係はらず其原種の單純なる爲めに一定の繭を多量に得らるべく伊太利は一時日本蠶との掛合種流行せし頃稍々粗雜に流れたることありしも多年經驗を經て今は四五種の少なきに至りたる由然るに日本蠶種の數は百を以て數ふる程なれば其製絲の不揃ひなるは尤の次第と謂ふべし

●第二●　前記の如く原料の粗雜なるは製絲の不揃ひに大關係あるは勿論なれども今日までの原料にても之を精撰し製絲に充分注意すれば今日より精良なる絲を得んは難きにあらざるべし從來の製絲家は個々に分立して永遠の利益などは思ひも寄らず目先きの奇利に迷ふて今日は細絲を製するかと見れば明日は太絲に移り十二デニール中の絲には十八デニールも雜るものあり唯不良の絲を高直に賣らんことにのみ注目し商標の如きは帶紙と同視するに過ぎざる次第なれば終始同一の絲として使用し難きは當然の事なり

●第三●　日本の製絲家が目先きの利にのみ走り自ら製したる絲が如何なる織物に使用さるゝかをも知らず横濱に於て賣れるに任せて無暗に製出するに就ては横濱の生絲商も亦大に其責を分たざるべからず其次第は横濱の生絲商は其需用先きの情況を知らずして唯一個にても多く荷物を引き口錢を增さんが爲めに資本の前貸しをなし荷爲替は現償に受拂ふなどの無理押しをなし荷主に媚びて製絲高を增加せしむるの外に良策なく甚しきは荷主と談合の上或は荷主には內々に横濱に於て商標を張り換へて賣込む事あり而して其商標も其儘に輸出さるゝにはあらず横濱の西洋人の手にて勝手の商標を附して何社或は何人の製絲とも知れずに輸出さるゝもの多きなり而して之を賣却するや只西洋人の鼻息のみ窺ひ需用起れば高張り買人なければ投賣りし曾て一定の商略あることなし斯る取引上の惡習を一洗するにあらざれば製絲家に反省せしめて日本絲の面目を一新せしむること能はざるべし

●今日の厄運に陷りし所以●

前記日本絲に關する缺點を知らば蠶絲業者が今日の厄運に陷りたる其原因は單に米國機業の不振にのみ歸すべからず寧ろ自業自得と謂ふべきもの多かるべし僅か三十年の間に我が蠶絲輸出額が驚くべき程に增進したるは主として米國機業の進步に伴ふたるものにして其數量は能く米國の需用に伴ひ增額するを得たりとするも品位の改良に至つては米國機業の進步に百步を讓らざるべからず日本の生絲と殆んど同年數を以て進步したる米國の絹織物に日本絲は經絲として使用さるゝことを得ず單に緯絲にのみ用ひらるゝとは自ら需用の途を狹くするものにして我が蠶絲業の一大恥辱、一大不利益ならずや

又今日の厄運を以て供給の需用に超過したるが爲めなりとし新絲期節の目前に迫れる今日に至り尚ほ三四萬個の殘荷あり加ふるに本年の養蠶平作ならんには昨年に比し一層製絲額を增加するならん本年も亦供給の超過を見ることなきや斯る次第にては全國の田畝を變じて桑園となさんなどは思ひも寄らず却て桑園を減じて田畝に復せざるべからざるかと憂慮するものあり是れ眞に杞人の憂へと謂ふべきなり、我が生絲價格を今日の六百圓臺の相場とするも蠶業家は他の農作物に比し充分の收益あり此上低落して五百圓臺となるも養蠶製絲改良の餘地は充分あるものなれば精良の絲を廉價に賣出すの工夫をなさんには製造費の廉なる手工に巧みなる日本の蠶絲が支那伊太利を凌駕せんは容易にして其需用の途は自ら開けんのみ左れども單に製絲の改良のみにて横濱賣捌き上今日の如き弊あらんには何程精良なる絲も時として大に滯積するを免れず折角開けたる需用の途も亦忽ち塞がることあるべし

以上記せし如くなれば我が蠶絲業者は今日の厄運に當り因循姑息の小刀細工を試みず大に覺悟の臍を堅めて資本薄く信用なき蠶業家は其跡を絕ち大資本家は益々業務を擴張して横濱に於ける賣捌上の惡弊を洗ひ荷主と問屋の關係を一變し米佛需用地の情況を探り支那伊太利の敵情を究めて諸般の缺點を去るに於ては我が製絲額今日に倍することあるも其需用に窮することなかるべし國家百年の大計より見れば今日の厄運の如きは實に些細の內證事のみ斯る厄運を來して蠶絲家を刺激するは其眠りを覺して大に蠶業界を革新せしめんが爲めのみ蠶業家の奮發すべき時期は今日にあり

○黨派の軋轢より學校の休業

長野縣小縣郡鹽川村にては兼てより自由改進兩派の軋轢甚だしく殊に去月八日二級村會議員撰擧のありてより一層其熱度を高め來りて改進派の子弟及び其父兄百餘名は連署して絕對的に不信用なる役場の監督に係る學校には入學し難しとて退校屆を差出したる上本月よりは別に村內の寺院へ教場を設けて授業すると同時に依然引續き學校に通學せる生徒に種々妨害を加ふるより同校の缺席者過半に及べるのみならず去る八日に至り教員さへ總て辭職するに至りしかば村長は是等の處置方に付十日臨時村會を開かんとせしも一名の外出席する者無き程の始末なるより終に村長を始め役場員一同は總辭職に及び學校も亦翌十日より全く閉校したるよし

○新兵營の位

圍を增設するに就
なり聯隊なり若し
設置せられんこと
有志者を奔走せし
るが兵營の設置は
るものにて鄭重に
めて定まるものな
きものに非ず其次
參謀本部　にては
る利害得失あるや
通の便不便如何、
べ作戰の計畫を爲
からず又其出師に
遲緩なるが如き言
ふが如き種々入込
陸軍省　にては兵
上、家屋の建築、
は一時の事とする
を考へざるべから
衞生上に於て能く
人の教育上には如
て教育、衞生、經
陸軍省の意見は兵
なり
然れども陸軍省の
ときは甲論乙駁利
營の位置決定すべ
とて參謀本部と陸
れば地方より上京
るべきものに非ず

○露國の滿州鐵

義爾古德斯克より
設し更に分れて旅
より得たりとは前
スタンダード新聞の
グ府に於て或る確
據れば支那が西伯利
と云ふ所より滿州
を許したる上に該
て是れは露國が支那
其報酬なりと斯て
を布設することを
む可しと云ふ議を
らしむる心算なり

○北陸鐵道工事

事は追々捗取りたれ
落成の運びに至らず
式も爲めに多少延期
くも來る五月より
寺間は本年度第一期
ひたる上來る五月
二期工事として八九
る五六月の交より用
月頃には少なくも右
云ふ